



報道関係者各位

2014年7月23日

山本電気株式会社

**シンガポールのストーンズエレクトロニクス社と提携  
1,500ml の大容量・家庭用大型フードプロセッサーを発売  
3つのボトルと8つのキットで10種類の調理に対応**



山本電気株式会社（本社：福島県須賀川市和田道 116 番地／代表取締役社長：山本弘則、以下、山本電気）はシンガポールの家電メーカー・ストーンズエレクトロニクス社と提携しキッチン用品ブランド「Ferrano（フェラーノ）」を立ち上げ、2014年8月1日（金）より第1弾商品として家庭用大型フードプロセッサー「Ferrano KITCHEN PRO FP31」を発売します。

なお、「Ferrano」ブランドは日本国内の家電量販店で販売するほか、アジア及び欧州などグローバルでも展開します。

**1台で10パターンの調理が可能で、様々な料理シーンで活用**

本商品は、3つのボトルと8つのキットがセットになっており、ボトルやキットを取り換えることで、10パターンの調理をすることができます。3つのボトルはフードプロセッサー用、ブレンダー用、ミル用と分かれており、それぞれの料理のシーンに使い分けすることができます。また、8つのキットは、「スライス」「千切り」「おろす」「こねる」「きざむ」「泡立てる」「する」「しぼる」といった調理ができ、料理を簡単に手早く済ませることができます。

**1,500ml の大容量で家族全員の料理に広がり**

本商品は、日本国内で販売されるフードプロセッサーの標準容量400～500mlに比べ約3倍となる1,500mlの大容量です。家族全員や大勢の人があつまるパーティでの利用やジュースや飲み物など一度に多くの量を必要とする食卓シーンに対応し、料理の幅を広げることができます。

《本件に関するお問合せ》

山本電気株式会社 家電営業課 担当：藤本、原 TEL：03-6303-8341 FAX：03-6303-8343  
共同PR株式会社 第6業務局 担当：笹川、伊藤 TEL：03-3571-5236 FAX：03-3574-9364

## ■商品概要

商品名： Ferrano KITCHEN PRO FP31

容量： 1,500ml

カラー： レッド／ブラック／ホワイト

付属品： ◇3種類のボトル

- ・フードプロセッサーボトル： 5つのブレード、3つのディスクを使用して7種類の調理ができます。
- ・ブレンダーボトル： ミックスジュースを作るなどの攪拌調理ができます。
- ・ミルボトル： コーヒー豆を挽いたり、煮干しを粉末にすることができます。

◇8種類のキット

- ・ナイフブレード： きざむ（野菜をみじん切りにする。挽肉を作る）
- ・ねりブレード： こねる（パン生地を作る）
- ・泡たてブレード： 泡立てる（メレンゲを作る）
- ・スライス/千切りディスク（大・小）： スライス、千切り（野菜をスライス、千切り）
- ・グレーターディスク： おろす（大根おろし、粉チーズを作る）
- ・しぼりブレード/ジュースブレード： 果実を搾る

◇管理栄養士・中津川かおり氏監修レシピ BOOK

◇取扱説明書

希望小売価格： 54,000 円（税抜）

発売日： 2014 年 8 月 1 日（金）

特長： ①家族全員の分を一度に調理可能な大容量の 1,500ml

②付属の 8 つのキットで充実の機能

③3色展開でスタイリッシュなデザイン

④管理栄養士・中津川かおり氏監修の本商品を使用したレシピブック

## ■読者の方からのお問合せ先

山本電気(株) お客様サポート Tel： 0570-01-4958

受付時間： 平日 9:00～18:00 まで（年末年始除く）

## ■「Ferrano」ブランドについて

「Ferrano」はストーンズエレクトロニクス社（Stone's Electronics Pte Ltd：以下、ストーンズ社）が立ち上げたシンガポール発のグローバルブランドです。「Ferrano」の製品コンセプトは、機能、洗練、魅力の 3 つの柱に基づいて形作られ、これはロゴにも 3 つのドットとして表現されています。

2011 年 10 月に、山本電気とストーンズ社が事業提携を行い、両者合意したデザイン及び設計コンセプトに基づき山本電気が設計・開発を受託し、ストーンズ社の関連工場が製造する製品が、「Ferrano KITCHEN PRO FP31」です。

## ■山本電気株式会社について

山本電気株式会社は、1934年に山本プレス工業所として創業し、現在ではモータ分野において屈指の技術を誇り、モータ開発・製造を強みに、掃除機をはじめとする家電から、空調・駆動系関連の自動車用モータまで、幅広い製品を世界中へ展開しています。

また一方で、1976年からは数々の調理家電を発売してきました。フードプロセッサーを始め、1982年に最初の家庭用精米機を発売、近年では道場六三郎氏プロデュースの「MICHIBA KITCHEN PRODUCT」シリーズにて、フードプロセッサー、精米機、ブレンダーを発売し、調理家電事業の拡大を図っております。